

令和6年度 大館市立田代中学校 学校評価書（前期・**年度**）

A 学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来の幸せをつくる学校 ～共生 凡事徹底 挑戦～

B 生徒会テーマ

「最幸」～この素晴らしい田っ中に幸せを！～

C 本年度の重点目標

- 1 未来大館市民の育成のために全教育活動を通して人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力及び自己有用感・自尊感情を育てる。
- 2 地域社会と関わる学習を通して、ふるさとへの誇りや志をもって自らの生き方について考えることができる生徒を育む。
- 3 地域貢献活動や地域との協働活動等を通して学校と地域の協働体制を構築し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

D 本年度の経営方針

基本姿勢 「目的」と「手段」を明確にした教育活動の展開

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

- 1 JAKSを基盤とした人間的基礎力 よりよく生きるための基本的な生活習慣、人間性や社会性を身に付ける
- 2 主体的実践力 自ら課題を見つけ、考え、判断し、よりよく行動する
- 3 共感的協働力 相手を尊重する 仲間と力を合わせて考え、創造する
- 4 自己有用感・自尊感情 互いに認め合う、自分のよさや可能性を知る、周りに貢献する

未来につながる確かな学力の育成

資質・能力を身に付けるために「見方・考え方」を働かせて学びを深める授業  
～教科等の本質を外さない、共感的・協働的な学び合いの充実～

- I 見方・考え方を明確にした授業構想 ※「見方・考え方」とは…課題を解決するための鍵となる「視点」や「考え方」
- II 共感的・協働的に学び合う授業の充実 樹林タイムD(考えを出し合う)樹林タイムF(考えを深める、広げる)
- III 学びの質を高めるためのICT活用の推進と個に応じた指導の充実(TT・少人数指導)
- IV OODATEループとPDCAサイクルを生かした校内研究の充実

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

- I JAKSを基盤とした人間的基礎力の育成
- II 主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成
- III 全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実
- IV いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

- I 郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動
- II 地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動
- III 望ましい職業観や勤労観を育む体験活動
- IV 社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動



【学校祭 全校合唱】



【きりたんぼまつり】



【北鹿新人大会準優勝の野球部】



【全県秋季大会優勝のバレー部】



【1年生の田代岳登山】



【2年生の自然教室】



【生徒会役員選挙立ち会い演説会】



【全県秋季大会3位の卓球部】

## ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の相違	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

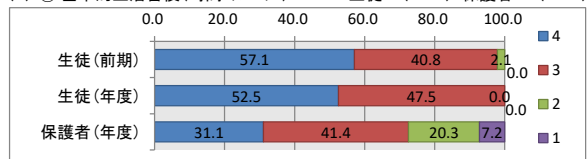
### I 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
<p>明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。</p> <p>互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。</p>	前期	おおむね良好	おおむね良好	素直で優しいところが田代中生のよさだが、授業等においては、もっと張りのある声を出してもらいたい。学年が上がるごとに大きな声が出ていて、1・2年生も3年生を見習って頑張ってもらいたい。ただ、校外でのあいさつはよくなってきており、以前に比べると声も大きくなってきているので、今後の学校生活にも生かしてほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	(2)「生徒理解と自己有用感・自尊感情」や(6)「集団への所属感」の教師の自己評価の「4そう思う」の割合が高くなっているのはとてもよい傾向である。意識が高くなってきているといえる。授業等、生徒には全体的にもっと声を張ってしゃべってもらいたい。
自己評価 学校の 校風の 要改と 善策	【前期(一年度)】			
	<p>基本的な生活習慣に関するアンケート結果の中で、生徒と保護者の開きが最も大きい項目は「時間・ルール」についてである。夏休み中の保護者面談では、家庭でのスマホ・ゲームに関する時間・ルールが守られていないという声が多かった。「スマホ・ゲームの所有者は保護者である。」という前提で、各家庭でルールづくりをするともに、そのルールが守られるように学校が助言していく必要性を感じる。</p> <p>学校行事等に、目標をもって取り組めていない、自信をもって取り組めていないという生徒が2割いる。そのような生徒には、キャリアアップシートで目標設定する際に、個別な支援が必要だと考えられる。また、行事後の振り返りの際に価値付けることによって、自信をもたせることが大切である。</p> <p>(4)～(6)の項目は肯定的な回答が多いことから、集団としての共感的な風土が養われていることが分かる。この強みを生かして、(2)自己有用感・自尊感情、(3)主体的実践力と共感的協働力の向上につなげていきたい。</p>			
	【年度(一次年度)】【成果】			
	<p>「時間・ルール」について、「4」と回答した生徒が5%程度減少したが、全生徒が「4」または「3」の肯定的な回答をしている。これは、統括委員会を中心に「時間管理」を意識させる取り組みが充実したからだと考えられる。(4)～(6)の項目は前期と同様に高水準であり、(2)自己有用感・自尊感情の肯定的な回答につながっている。また、ほとんどの教師の回答が「4」であることから、基本的自尊感情を育成しようとする風土が生まれている。現在行っている取組を継続して質の向上を図ることを通して、生徒が生活や学習において内発的に実践意欲が向上するサイクルを構築していきたい。</p>			

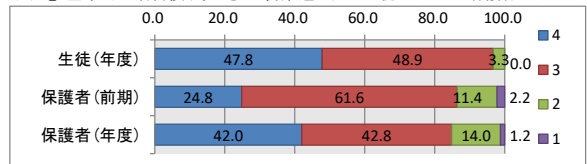
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期	後期	前期	後期
1 JAKS: 基本的な生活習慣の確立 TPO: 人間的基礎力、共感的協働力の育成	(1) 基本的な生活習慣の確立(時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓)	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上(凡事徹底)	3		3	
	(2) 生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見直し、称揚と生徒同士が認め合う場の設定(共生) ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	4	3	4	3
	(3) 目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り(挑戦) ・目標の実現に向けた、共感的・協働的に高め合う場の設定	3		3	
2 共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4) 互いに支え合う個・集団づくり ・学年、学級経営、学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・学校行事に向けた目標設定及び事後の活動の振り返りの場の保障と価値付け(田っ中キャリアアップシート)	3		3	
	(5) 主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・生徒会活動(執行部、専門委員会)	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・地域と積極的に関わる活動の充実	3	3	3	3
	(6) 共感的・協働的活動による所属感、連帯感、自己有用感の醸成 ・体育祭(田っ中ソーラン、応援合戦)、学校祭(合唱コンクール、学年発表)、地区ボランティア(夏・冬)	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動(体育祭、地区ボランティア等)	4		4	

(主なデータ) 4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまりそう思わない 1…そう思わない  
※数字はR6年度平均(←R6前期平均)

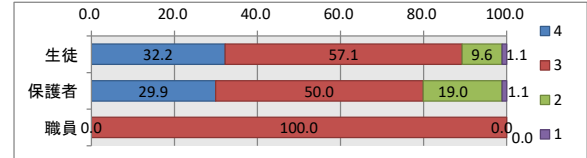
(1)-① 基本的な生活習慣(時間・ルール) 生徒3.5(←3.5) 保護者3.0(←3.0)



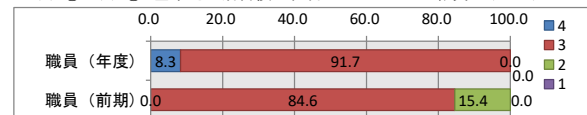
(1)-② 基本的な生活習慣(あいさつ・言葉遣い) 生徒3.4(←3.5) 保護者3.3(←3.1)



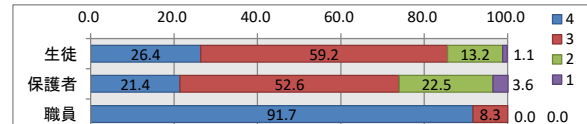
(1)-③ 基本的な生活習慣(傾聴) 生徒3.2(←3.3) 保護者3.0(←3.0) 職員3.1



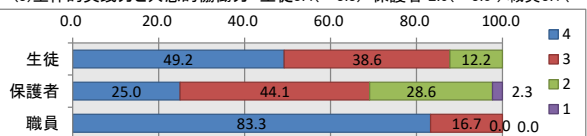
(1)-①～(1)-③ 基本的な生活習慣の総合 職員3.1(←2.8)



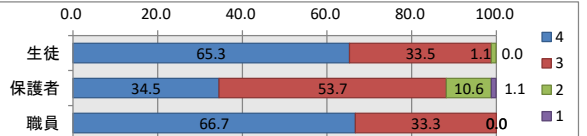
(2) 生徒理解と自己有用感・自尊感情 生徒3.1(←3.0) 保護者2.9(←2.8) 職員3.9(←3.3)



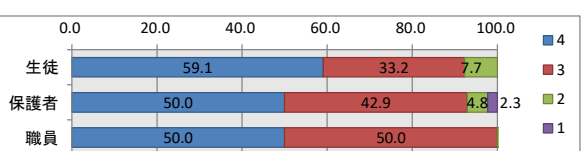
(3) 主体的実践力と共感的協働力 生徒3.4(←3.3) 保護者2.9(←3.0) 職員3.1(←3.0)



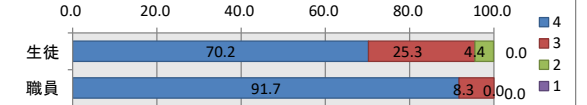
(4) 支え合うことと集団づくり 生徒3.6(←3.7) 保護者3.2(←3.1) 職員3.7(←3.0)



(5) 学校生活の充実と向上 生徒3.5(←3.6) 保護者3.4(←3.3) 職員3.5(←3.3)



(6) 集団への所属感 生徒3.7(←3.8) 職員3.9(←3.8)



#### ■データから見える成果と課題

- JAKSによる基本的な生活習慣は、②あいさつ・言葉遣いについて、保護者の評価がよくなってきている。教師の総合評価も高くなっている。
- SOBA-SETやアセスをもとにした自尊感情の育成への取組の成果が徐々に始まっていることから、教師の評価がとても高くなっている。
- 「田っ中キャリアアップシート」にも慣れてきて、生徒・教師とも資質・能力を意識して活動できるようになってきている。
- ～(6) 今回も、全般的に生徒の肯定的な回答の割合が高い。学校行事や地域でのボランティア、貢献活動、登山、自然体験学習を通して、自己の成長を認知できている。

# ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意識もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

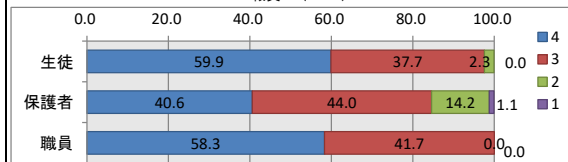
## Ⅱ 思いやりの心・たくましい心

生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるための考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	前期	良好	「郷土愛」については、職員の肯定的な自己評価が100%であったことがとても素晴らしい。それだけ、先生たちが地域のために一生懸命頑張ってくれているのだと思う。また、今年から始めたSOBA-SETが生徒を育てる指標になっており、どの学年も7割から8割程度の生徒がA段階（基本的自尊感情・社会的自尊感情が高い）に該当している点は評価できる。
	年度	良好	SOBA-SETを活用して、個々の生徒の自尊感情の状況を把握して対応しており、結果にも表れている。このように子どもたちの心の状況を見える化する新しい取組や理論は、教師にとってもとてもためになっている。(8)「郷土愛」の教師の自己評価の「4」の割合が高くなっているのがよい傾向である。田代岳登山やソーラン、なべっこなど、本校独自の取組が思いやりや絆作りにつながっている。
自己評価の学校の概要と改善策	【前期(一年度)】 (7)については、生徒・保護者・職員いずれも約9割が3と4の肯定的な回答をしていることから、認め合い、協力し合う力が育っていることがうかがえる。4月から学校行事の計画を立てる際に道徳との関連性を明記し、育てたい内容項目を意識しながら教育活動を進めることができるので、継続していきたい。また、事後指導等で良かった点を教師が伝えたり、生徒同士で伝え合ったりする活動を充実させることで、自分の良さを自覚し、さらに前向きに学校生活を送ることができるようになりたい。2学期には、全校の基本的自尊感情をさらにアップさせるために、週1回の道徳の授業を大切にしながら、12月にはゲストティーチャーを招いて全校道徳を行い、自分という存在の大切さについて考える機会を設けたい。 キャリアアップシートの活用により、それぞれの活動でどんな力を付けるかが明確になり、適切な目標設定につながったため目標を意識した活動につながった。振り返りでは文章記述の他に数値での自己評価を行うことで、伸びた力が可視化されて自分の成長を実感することにつながっている。2学期には、さらに効果的な活用ができるようにシートの運用の仕方を工夫していきたい。		
	【年度(一学年度)】 (7)「自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成」では、4と回答している割合が大きく伸びた。2学期は行事が多かったため、道徳教育を始めとした日頃の学びを実践する場で、思いやりの心を発揮することができたのではないかとと思われる。さらに振り返りを大切に、実践できたことに対する価値付けを継続していきたい。また、ゲストティーチャーを招いた全校道徳も生徒の基本的自尊感情を高めるよい機会になったので、3学期も第2回全校道徳を行う計画を立てている。 (8)「ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成」では、郷土愛についての評価で4と回答した職員が9割を超えたが、生徒を見てみると4の割合が減少している。田代岳登山や田代自然学習、未来を語る会などの事前・事後指導を充実させ、生徒がふるさとを愛する心を育てていきたい。そのために、キャリアアップシートを効果的に活用し、学びを実感できるようにしたい。		

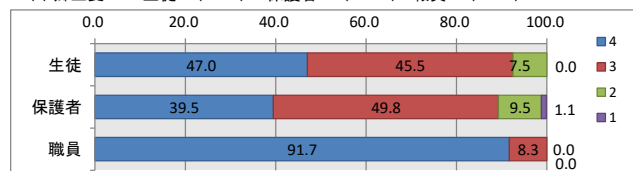
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7)自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践(道徳教育全体計画別業の活用) ・創意工夫を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・道徳集会(全校生徒で「考え、議論する」場)の設定	4		4	
	(8)ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成 ・職場見学、地域訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場見学、地域訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通じた郷土愛の醸成 ・ボランティア活動、地域行事、子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け(ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアパスポート、キャリアノート)	4	4	4	4

### (主なデータ)

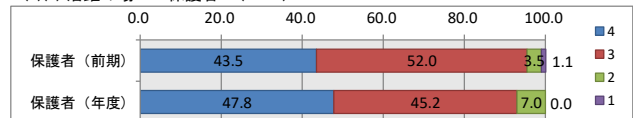
(7) 自他を認め、協力し合う態度 生徒3.6(←3.6) 保護者 3.2(←3.2) 職員3.6(←3.1)



(8) 郷土愛 生徒3.4(←3.6) 保護者 3.3(←3.2) 職員3.9(←3.4)



(7)(8) 活躍の場 保護者3.4(←3.4)



【田代岳登山(1年生)】



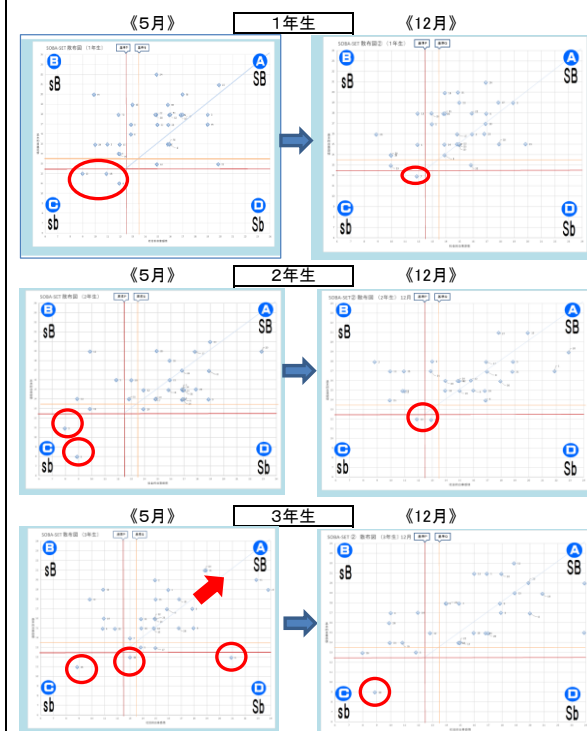
【自然教室(2年生)】



【なべっこ】



【きりたんぽまつり】



	基本的自尊感情の平均	社会的自尊感情の平均
1年	16.5→16.4	14.6→14.6
2年	15.3→16.3	15.2→15.2
3年	16.2→16.6	15.3→15.6

※どちらも満点は24点

- データから見える成果と課題
- (7)・思いやりの心をもって、自他を認め合うことができると回答した生徒が95%以上いる。
  - ・SOBA-SETの調査から、CとDの人数が少なくなり、全体的に右上への動きが見られ、よい傾向にあるといえる。
  - (8)・郷土愛についての教師の評価が極めて高くなっている。登山ができたことや未来を語る会の充実した内容によるものと考えられる。



## ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

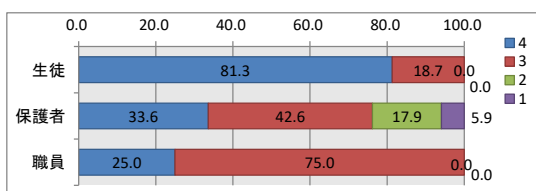
## Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、共感的・協働的な学び合いを通して「おおだて型学力」を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	家庭学習については、生徒も職員も90%以上が肯定的意見であり、よく取り組まれている。生徒ヒアリングでは、「授業がとてもしかりやすく楽しい」という声があった。他にも学び合いの時間「樹林タイム」が生徒の中に浸透しているとの声も聞かれた。教師がめざす授業の形が「授業スケール」で示されているので、これからの授業改善に期待したい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	ICTの導入や先生方の授業づくりの努力が今日の参観からも伝わってきた。ただ、生徒のアンケート結果と教師の自己評価の数値の差がデータから読み取れるので、なぜこのような差が生まれたのかも検証してもらいたい。また、生徒ヒアリングにもあったが、授業で周囲の生徒と話し合って意見交換することで、声も出せるし自信も生まれ発言力も付くようなので、どんどん進めてもらいたい。県学習状況調査における1年生の成績がとて素晴らしいので、今後とも期待したい。
自己評価の学校の要改善策	【前期(一年度)】			(9)に関して、年度初めのオリエンテーションや、日々の学習委員の活動により、生徒一人一人が基本的な学習習慣を意識しながら授業に臨むことができているとらえている。家庭学習に関しては、生徒と、保護者、教師との間の感覚にずれがある。教師が求めるレベルに、生徒のやる気や内容を引き上げていきたい。 (10)主体的・協働的授業について、肯定的な回答が低い。生徒の主体性を引き出し、協働的学習を促す授業実践ができていないと感じている先生が一定数いるという点や、自分の意見、疑問を表現できている生徒が6割にとどまっている点が課題である。2学期は、本校の研究の重点実践項目である、生徒が主体的に自力解決へと向かう導入の工夫や、学び合いの時間「樹林タイムD・F」の一層の充実をはかっていく。その際、校長だより7号で示された、授業改善のためのスケール型チェック表を使い、自分の授業が現在どのレベルにあるのかを自覚し、改善を目指す。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実がなされるよう、ICTを積極的に活用しながら新しい授業の形を探ってきたい。
	【年度(一学年度)】			(10)「主体的・協働的授業」について、生徒の肯定的回答が微増、教師は大きく増加した。生徒が授業で自分の意見や考え、疑問などを(仲間)に述べるようになるには、自分の考えをもつことが前提となる。生徒が各自の意見をもてるように、必要感のある課題づくりや各教科で見方・考え方を働かせることを一層重視したい。また、自分の考えを述べるための学習形態の工夫や場の設定など、協働的な学習になるような仕掛けづくりと、学習が深まるような視点の与え方や教師のコーディネートに継続して取り組む。(11)教師の「指導方法の改善」への取組について、前期と比較して肯定的な回答が増加した。授業研究会では、教科は違えど先生方一人一人が自分事として捉え、課題に対する具体案について考えることができた。授業改善に向けての教師の意識が高まりが見られるので、今後も全職員で実践を重ねていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
4 一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	・「田代中学習の約束」を基盤とした基礎・基本の定着 ・学習、ICTオリエンテーションによる生徒の学習意欲の向上と授業を見合う会(樹林ツアー)、研究授業等による授業改善 ・学習委員会による学習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3	3
5 授業改善への取組	(10)生徒一人一人が自分の考えをもち、共感的・協働的に課題を追究する授業実践	・各教科で働かせる「見方・考え方」や育む資質・能力を明確にした単元(題材)構想と授業デザインの工夫 ・学び合いの時間「樹林タイムD・F」の実施と教師のコーディネート ・自己の姿容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3	3
6 諸検査の分析と活用	(11)学習状況調査等の分析と指導方法の改善	・各種テストの分析と適切な回復指導 ・形成的評価を生かした学習状況の把握と回復指導	3	3

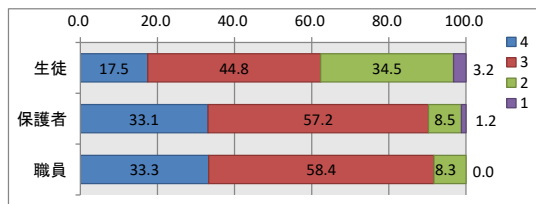
## (主なデータ)

(9) 家庭学習の継続 生徒3.6(←3.6) 保護者3.0(←3.0) 職員3.3(←3.3)



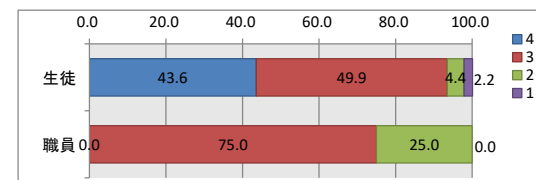
(10)主体的・協働的授業 生徒2.8(←2.7) 保護者3.2(←3.1) 職員3.3(←2.8)

生徒:授業で自分の意見や考え、疑問などを述べるようにしていますか。  
保護者:学校は少人数学習やチームティーチング、個別学習など、学力を向上させるための工夫をしていると思われるか。  
職員:生徒が主体的に課題を追究する授業実践

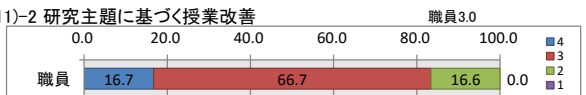


(11)諸検査の分析と活用・授業の理解 生徒3.3(←3.2) 職員2.8(←2.9)

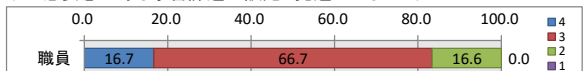
生徒:授業の内容をおおよそ理解することができていますか。  
職員:各種テスト、評価、学習状況調査等の分析と回復指導



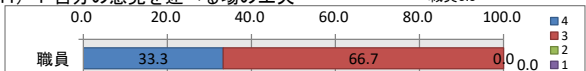
(11)-2 研究主題に基づく授業改善



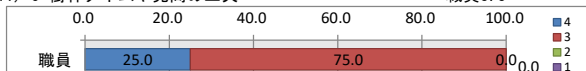
(11)-3 必要感のある学習課題の設定と見通しのもとせf職員3.0



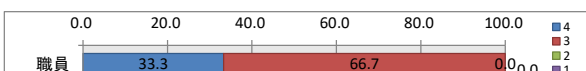
(11)-4 自分の意見を述べる場の工夫



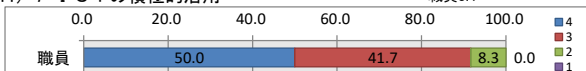
(11)-5 樹林タイムや発問の工夫



(11)-6 振り返りの工夫



(11)-7 ICTの積極的活用



秋田県学習状況調査(R6.12月実施)の結果

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
1年県比	105.4	116.5	117.4	117.6	113.0	114.0
2年県比	101.1	94.0	99.3	95.1	99.8	97.9
(2年 R5 1年時)	(98.3)	(80.5)	(81.6)	(101.2)	(109.5)	(94.2)

県平均＝100.0

## ■データから見える成果と課題

- (9) 家庭学習について、80%の生徒がよく行われていると自己分析しているものの保護者・教師は30%程度しかそう感じていない。宿題だからと間に合わせでかしているものと考えられる。自分から学習したいと思えるようにしたい。
- (10) 生徒の意識として、挙手発表することが自分の意見を述べることでありと思っているため数値は低くなっているようだが、小グループでの話し合い活動は活発になってきている。
- (11) 授業におけるICTの活用、話し合いの工夫はよくされるようになった。今後は、課題に対してじっくりと考えられるような授業づくりをしていきたい。

# ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

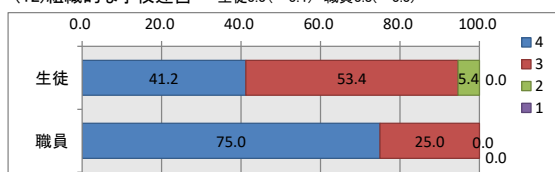
## IV 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	前期	良好	良好	(12)組織的な学校運営、(13)②「心と体の健康(全般)」、(14)「社会に開かれた特色ある教育課程」の3項目における教師の評価を見ると、肯定的な意見が100%を占めており、昨年度よりも向上している。教師集団がお互いに高め合いながら一つの目標に向かっていく。生徒ヒアリングでも「学校生活がとて楽しい」という声が上がっていることから先生たちの頑張りが窺える。
	年度	良好	良好	全般的に肯定的評価が高い。研修に関しても、「樹林ツアー」によって授業を参観しあう機会があり、ICTの活用などについて学ぶ機会になっている。教師の評価が全般的に高くなっているが、道德教育をあらゆる場面で実施し、道德の内容項目を意識した取組が功を奏している。
自己評価 学校の概要の要 改と 善 策	【前期(一年度)】 三つの柱に基づいた共通実践を支えるものとして、生徒の「自尊感情」や「自己有用感」を育成することを切りに、新たに「SOBA-SET」を活用した生徒理解や教育相談、チーム対応の充実が図られた。職員のアンケートにおいても組織的な学校運営の項目(12)と(13)で高評価を得ている。生徒アンケートにおいても「誰に悩みを相談できるか」という項目で「4」と「3」とで8割を超える高評価である。だが一方で「1」と「2」と答えた生徒も1割強存在する。今後は、そのような生徒を置き去りにしないような教職員の受身の向上とチーム対応が必要と考える。多様な生徒が増えると同時に家庭環境も多様化している。職員会議で、生徒理解に関する研修を校長を中心に行っているが、もう少し時間をかけてじっくり研修したい内容である。日課の調整を行うなどして、生徒理解に関する研修の場を設けていきたい。ふるさとキャリア教育については、活動を「総合」「特活」「行事」等、どれに分類されるのかを明らかにしたことで、目標設定からまとめまでを一貫して行うことができた。			
	どの項目においても教職員の「4」の評価が増えた。このことから、教職員が「チーム」を意識して、学校教育目標の具現化に取り組んだ成果だと考える。生徒理解の手段の一つである「SOBA-SET」の活用により、個に応じた自尊感情の高め方があることや、それに伴う言葉かけの在り方等、教職員の意識が変化することは、今後の課題予防的な生徒指導につながっていくと期待できる。また、2学期末に設定した「未来を語る会」は、担当者を中心として綿密な計画のもと行われた。ゲストティーチャーの人選や講話の内容等、地域の人やもの、ことを活動のねらいにあった活用をしっかりと行うことによって生徒のふるさとへのほこりや自立へ気概を育み、ふるさとキャリア教育の充実を図ることができた。研修においても、教科の枠を超えて、互いに意見を出し合う教職員集団であること、教科は違えど、指導法について共通点があり、互いのプラスになっている。来年度も「チーム田代」として、教職員がスクラムを組んだ実践を行っていくようにしたい。			

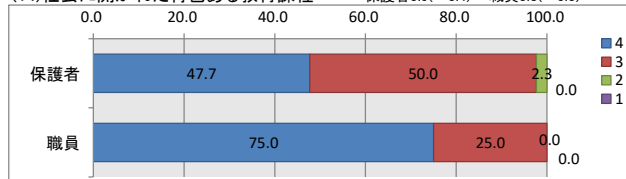
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 組織的な学校運営	(12)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 (共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応)	・目標の実現のための三つの柱(確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさとキャリア教育」の充実)に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資質・能力(JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情)の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	4	4
	(13)生徒理解を深め、課題予防的な生徒指導の実践	・教育相談・アセス・SOBA-SETの実施、教員間の共通理解とチーム対応 ・不登校、問題行動についての共通理解と支援体制の構築 ・生徒の健康に関する共通理解と健康意識の向上を期した掲示環境の整備 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導と食育	4	4
8 教育課程の編成と実施・改善	(14)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・ふるさとキャリア教育を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しをもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	4	4
9 教職員の研修	(15)研修及び授業研究会を通じた指導力の向上	・校内研修会(ICT、夏季、冬季)の充実 ・教科を超えて全員で研修する指導案検討会と授業研究会 ・毎月1回「授業を見合う時間」(樹林ツアー)の設定	3	4

## (主なデータ)

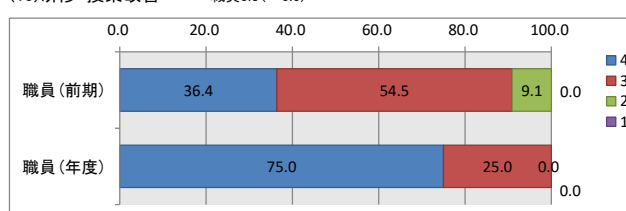
(12)組織的な学校運営 生徒3.3(←3.4) 職員3.8(←3.3)



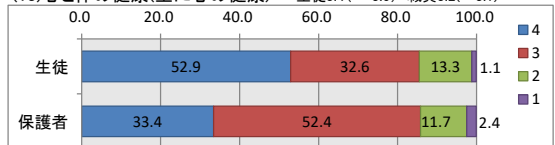
(14)社会に開かれた特色ある教育課程 保護者3.5(←3.4) 職員3.8(←3.3)



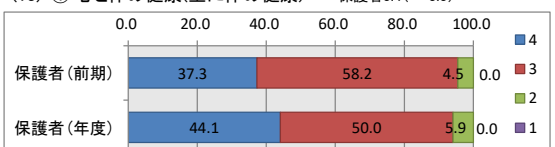
(15)研修・授業改善 職員3.8(←3.3)



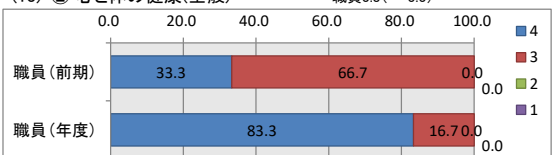
(13)心と体の健康(主に心の健康) 生徒3.4(←3.5) 職員3.2(←3.1)



(13)-① 心と体の健康(主に体の健康) 保護者3.4(←3.3)



(13)-② 心と体の健康(全般) 職員3.8(←3.3)



## ■データから見える成果と課題

- (12) 生活、学習ともに、教職員が同じイメージをもちながら学校教育目標を具現化できるように構造化されたため、どのような場面においても、具体的に組織的に取り組むことができた。また、生徒にはJAKSや今年度の重点を示したことで意識させることができた。
- (13) SOBA-SETやアセスをもとに、その生徒の心理や認知の状態を意識しな接することは、とても効果があった。今後はさらに愛情の伝え方や話し方に関する研修を積み重ねていきたい。また、健康面では、定期的かつ必要に応じて保健だよりが発行されており、とても効果的であった。
- (14) 「未来を語る会」や「ココロの授業」等での地域人材の活用、地域行事でのソーランやボランティア活動、アルミ缶回収、登山でのボランティアのお願い等を通して、地域の方々にも協力していただきながら教育を進めてきた。
- (15) 根拠をもった研修となるよう、毎月の職員会議では様々な分野での研修を実施している。授業研究会では、意見が活発に出るようKJ法を取り入れたワールドカフェ方式にしている。

イ  
学校運営の  
状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	学校報、学年報やブログ、ホームページ、メール等を活用して、学校や生徒の活動の様子を丁寧に発信していることが高評価につながっている。校地整備等のPTA活動の際には、多くの保護者の皆さんに参加していただいております、学校と保護者との連携・協働が進められている。
	年度	良好	良好	どれも高い数値になっている。日頃からブログ等により学校の情報を発信をしてもらっており、とてもありがたい。(16)「広報活動」の教師の自己評価が「4」が100%になっており、大変素晴らしい。また、未来を語る会のゲストやロケット燃焼試験場の見学など、地域とのつながりがとてもよい。
自己評価の学校の概要と改善策	【前期（一年度）】 今年度も引き続き、学校の教育方針や学校行事における生徒の活躍の様子について、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で情報発信してきた。今年は「校長室より」と題して、校長自ら教育方針や今年の重点について紹介する機会をもつことができた。保護者の95%が肯定的な回答をしているが、昨年度より4の回答が増加しており、ここ3年間の内では最高の値となっている。今後は生徒や職員の声も紹介するなど、情報の質向上をめざしていきたい。 地域・保護者との連携についても保護者の94%が肯定的な回答をしており、4の回答も増加している。今年度は地域コーディネーターの紹介により、三菱重工業田代ロケット燃料燃焼試験場を見学することができた。通常は見学を受け入れていない施設であり、子どもたちにとって地元田代に先端技術であるロケット施設があることを知る貴重な機会となった。			
	【年度（一次年度）】 前期に引き続き、学校報や学校HP、学校ブログを通じて、学校の教育方針や学校行事における生徒の活躍の様子について情報発信を継続してきた。後期は子どもたちや職員の声もブログで紹介することで、内容を充実させることができた。保護者の数値を見ると、前期より4の回答は若干減少しているが、全体では約98%が肯定的な回答をしており、前期を上回っている。また、教職員では4の回答が100%となっており、ここ数年で最も高い数値となった。今後も情報や内容の充実を図りながら、タイムリーな情報発信を続けていきたい。 地域・保護者との連携については、ここ数年悪天候のため中止となっていた田代岳登山が、14名の登山ガイド、保護者ボランティアの協力を得て3年ぶりに実施することができた。参加した1年生全員が無事登頂し、ふるさと田代の雄大な自然を堪能することができた。その他にも「未来を語る会」、「ココロの授業」、「認知症サポーター養成講座」等、数多くのゲストティチャーを招き、地域の教育力を活用することができた。保護者の肯定的な回答が若干減少しているが、活動内容の見直しを図りながら、地域や保護者との連携・協働による教育活動の充実を図っていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
10 情報の受発信と学校開放	(16)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域・社会への情報発信 ・学校開放の実践（保護者・地域）	4		4	
11 地域の教育力の活用	(17)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携・協働のための連絡調整と活動の促進	4	4	4	

(主なデータ)

【(16)広報活動 保護者3.5(←3.5) 職員4.0(←3.7)】

対象	4	3	2	1	平均
保護者(前期)	4.6	41.1	54.3	0.0	3.5
保護者(年度)	2.3	44.0	53.7	0.0	3.5
職員(前期)	0.0	41.7	58.3	0.0	4.0
職員(年度)	0.0	0.0	100.0	0.0	4.0

【(17)地域の教育力の活用 保護者3.3(←3.3) 職員3.8(←3.4)】

対象	4	3	2	1	平均
保護者(前期)	1.1	47.7	51.2	0.0	3.3
保護者(年度)	1.2	5.8	56.0	36.9	3.3
職員(前期)	0.0	0.0	66.7	33.3	3.8
職員(年度)	0.0	16.7	83.3	0.0	3.8

【ブログによる情報発信】

【ホームページによる情報発信】

【「未来を語る会」のゲスト】

【田代岳登山のボランティアガイド】

■データから見える成果と課題

(16) ホームページやブログ、学校報や学年だよりでまめに情報を発信している。市内の小・中学校の中でもっとも数多くのタイムリーな情報を公開している。ブログやホームページ自体のPRをもっとしていきたい。

(17) 「未来を語る会」、「田代岳登山」、「自然教室」、「ココロの授業」、「認知症サポーター養成講座」、「薬物乱用防止教室」等、数多くのゲストティチャーを招いての授業が実施された。また、ボランティア活動や地域行事への子どもたちの参加、地域広報活動での子どもたちの活躍などで、地域の教育力を大いに活用させてもらった。